

2019/02/01

関係各位

Far East Group

会長 大嶋 謙嗣

## 型を持つ

### ～造化のプロセスの応用～

#### ●型を持つ

受験生はラストスパートの時期だろうか。

過去問や基本問題（の解説）を繰り返すことがなぜ効果的か。それは、その問題の解き方を通して「答えを出すまでの道筋＝型」を体得することができるからだ。一つの型（やり方、答えまでの道筋）が身に付けば、それを繰り返すことでその型の理解が深まる。すると、その一つの「型」という幹が枝葉を伸ばすように、周辺知識や別のやり方（型）へと必ず広がっていく。それが一定量以上になると、様々に会得した知識や型が結びつき始め、自分のやり方（型）が出来上がって実力は飛躍的に伸びる。

「男」という漢字、「口」という荒野の一区画を開墾するためには、まず「十」と道（あぜ道）をつける（田）。その道に従って力を尽くしていくことを表した字。力に支えられた実り。「一区画を決め、道筋を付け、その道に沿って力を尽くす」という型を持っていること、それが「男」である。

逆から言えば、「これをやる」と志を明確にできない者、道筋をつけられない者、その道筋に順って力を尽くすことができない者は「男」ではない。

ひとつの「型（方法）」を持ち、そこから形あるものを作っていけば、それは必ず次の型の構成要素の一つとなり、次の型、そのまた次の型へと発展していくことができる。最初の一つの型は、些細で衝動的・突発的な行動で飛び込んだ世界で最初に手に触れたものでいい。とっかかりの「一（はじめの型）」は何でもいいのだ。一つの型を身につけ、そこから派生・展開させていくという変化（向上心）を重ねていく中で自分の型が徐々にできあがってくる。様々な型を持つようになる。

些細な変化の連続こそ、大きな飛躍の「型」、志を見つける「型」になる。そして型を身につけたら、それを「変化」させていくことがより大切な事なのである。固まってしまっては命の躍動（造化）はない。

#### ●「造化」の型

ここで「造化のプロセス」という型を再確認してみる。

言うまでもなく、「造化」とは万物を創造変化させていくはたらきのことであり、それは陰陽相対原理（相対するものが結びついて変化していく）に基づく。陰陽とは相対立するものであり、同時に相支えるものを象徴的に言ったものである。陰陽がお互いに対立したり結びついたり関係性を持つことで向上発展していく。

陰陽の陰とは、「統一・潜蔵・調和・結ぶ・籠（こも）る」という意味を象徴し、陽とは「分化・発現・表立つ」という意味を象徴する。

陰陽相対というのは、陰陽お互いがお互いを支え合うことで生きるが、どちらかという陰は陽よりわかりにくい。従って、長所も短所も陽の方が陰より認識しやすい。しかし、陽偏重になりやすいところには色々な問題が起こる。

例えば「知識」。これは陽性のものだから、活動・発展しやすい。相対する陰は「情（結びの力）」であり、知と情が調和しているものが「中（進歩・発展）」である。もし、陽偏重となり情のない知となればとんでもない誤りに陥りやすい。

従って、陰と陽は陰の方が厚いのが根本。知（陽）は陰からの派生だから、木で言えば枝葉であり花実である。人間に置き換えれば、内に情が厚くて頭がいいのが望ましい。知が情に勝ると、軽薄・利己的になりやすい。そこで才知に秀でていればいるほど、反省や修養、そして情を養うことが大切になる。今いる場所が分かれば、道は付けられるもの。

この陰陽相対原理を持つ「造化のはたらき」を形に体現させるプロセス（型、方法、道筋）は、例えば以下の四段階である。

- 1.陰陽全てを包容する
- 2.親しみ、個々の陰陽の特徴を明らかにする
- 3.陰陽を結びつける
- 4.新たな変化、新たな形が生まれる

造化のはたらきとは、万物を創造変化させてきた源だから、造化のプロセス「方法、型」を派生させることで多くの業界の様々な「型」を産みだすことができる。

いくつか展開させてみる。

#### ● 「人物」の型

例えば「人物論」に展開させれば、まず鍛えるべきは陰「1.包容力・器量」と陽「4.展開力・実践力」。これらを実効的にするために「2.広く親しみ、深い理解に努め」「3.お互いに協力仕合い、支え合う」ことである。

人物として大切なことを一言で言うなら「包容力と展開力」である。

周知のことであろうが、FEGで掲げている「人物」の要件も、造化の型を派生させ

たものである。

- 1.元氣（気力・骨力）があること
- 2.志義（明確な目標・野望）を持つこと
- 3.知識・見識（知識に基づく判断力）・胆識（見識に基づく実行力）を持つ
- 4.節度・規律を持つ
- 5.造詣（専門技術・専門知識）を深める
- 6.親和（広く親しむ、切磋琢磨できるライバル）
- 7.風韻風格が顕れてくる

### ●「アイデアの作り方」

次は「アイデアの作り方」に展開。J.W.ヤングの名著である「アイデアの作り方」は80年前に出版された（知的発想法のロングセラー）本だが、広告業界などでは今でもバイブル的な存在である。その理由は、アイデアの作り方が造化のプロセスと同じものだからだと思う。

ここに紹介させてもらうので、「造化の4段階の型（方法、道筋）」からの派生として再度確認してもらいたい。

まず、アイデアの原理2つ。

- 1.アイデアとは、既存の要素の新たな組み合わせである。
- 2.物事の関連性を見つけ出す（結びつける）能力がとても大切である。

実際にアイデアを生み出すための方法論は5段階に分かれる。

#### ①.資料・情報の収集

→特殊資料・・・課題を解決するための資料・情報。商品（サービス）と顧客について徹底的に集める。

→一般資料・・・古代エジプトのピラミッドからモダンアートまで、世の中に興味をそられないテーマは存在しない。

#### ②.関係を探す

→集めた資料・情報をどうやって組み合わせることができるか、頭の中でとことん咀嚼する。浮かんだ組み合わせは紙に書き出す。

→組合せた情報の一段上にある共通の道理を見つけてみる。

※意識的に行う段階はここまで。頭を徹底的に、限界を超えるまではたらかせる。

※ほとんどの人が、人事を尽くし切らないで中途半端で見切りをつけてしまう。だから、潜在意識まで入っていかず新しいアイデアにたどり着かない。「楽をしたい、怠けたい」言い訳に潜在意識を持ち出しても結果は出ない。諦めず、徹底的に頑張る。

#### ③.この問題を一旦横に置く（緊張を解いて潜在意識に任せる）

→気分転換。スポーツ、映画、旅行、音楽等。感情へ新鮮な刺激は送り続ける（問題

を横に置くのだが、捨ててしまうわけではない。種火は残しておく)

④.思いもかけないときにアイデアが閃く (潜在意識から顕在意識へ戻ってくる)

⑤.生まれたアイデアを現実の世界で形にしていく (一つの終わりは次の始まり)

→アイデアを消さないためには相当な手入れと忍耐と積極性が必要。

→良いアイデアは人を刺激するため、多くの人の手助けを得ることができ、形になる。

ほら、造化のプロセスを展開してアイデアのつくり方の「型」にする。もしくは、アイデアのつくり方から造化のプロセス (型) を再確認することができるでしょう？

新たなものを生み出していく (造化) には、当たり前存在しながらも私たちが自覚できない力 (潜在意識) や外部の力 (自然の摂理) がはたらくということも確認できた。

### ●「食事」

「食事のプロセス」に展開してそれを確認してみる。

#### 1.食材集め

→旬のもの、食べたいもの、冷蔵庫にあるもの、スーパーの特売品等

#### 2.組み合わせ

→各食材の食べ合わせ (刺身とわさび等)、調理方法。

→もちろん、メニューが先あってそれに従って食材を集めることもある。

#### 3.食べる

#### 4.胃や腸で食べ物は消化吸収される

※この段階は意識してやるものではない。私たちの身体ではあるが、自覚のないところで身体が自動的にやってくれている。

#### 5.身体を動かし、摂取した栄養を血肉として骨を強くしたり筋肉を大きくしたりする

### ●再び陰陽相対

どうだろうか。それぞれの分野によって使われる言葉は違うが、「造化のプロセス」という型がそれぞれに派生したものだ、と、(ちょっぴり) 感じることはできたのではないだろうか。

造化とは陰陽を正しく活用して発展させることであり、それを「中」とも言う。陰陽相対原理を捉え、様々に研究し活用することで自らの見識は高まり、今の型を変化させ、独自の型を手に入れ、新たな造化へと進めていくことができる。それは、己を表現して、仕事や事業の成果として形にしていくということ。

原理も方法も分かったのだから、他に必要なものは調達できるはずだ。強くあろう。それは弱さを無くせというのではない。弱さを認めて、弱さに向き合い、そこから逃げなるといふことだ。誰だって、己の中にある黒い心に気付く時があるだろう。自分のズ

ルと向き合えずにそこから逃げた弱さと、安全圏で言いたい放題に言うだけで何の実行もしない弱さは同じものだ。

物事は陰陽相對。心も同じ。だから、弱さから逃げずに正面から向き合う。弱さを否定することも自慢することも必要ない。克服したい部分があるなら死に物狂いで頑張ればいい。弱さを認めて心を開けば、他とつながることはそんなに難しいことじゃない。恥ずかしかったり照れくさかったりするけれど、次へ向かうなら、いつだって独りでいるよりふたりの方がいい。相棒、パートナー、仲間を持つ。それも一つの「型」だ。

今回最後にもう一度。

「いつ？どこで？誰と？」などの条件をつければ、その時陰陽どちらが重視されるべきかという疑問に答えはある。しかし、本来陰陽は相對。陰を活かすは陽が支え、陽を活かすときは陰が支える。物事は、お互いが相對立したり相待ったりと、様々な関係を作りながら「中（進歩発展）」していく。

そして、進むべきか、耐えるべきか。Yes か No か。その答えは、いつだって自分で決断するものだ。それが意志を持った人間の使命である。

今月も健康と健闘を！